

【種別】

“[紅世の徒](#)”、[通称](#)

【初出】

X巻

【解説】

“[紅世の王](#)”。[真名](#)は“[私の雷剣](#)”（ふつのらいけん）、[炎](#)の色は眩い紫電。

『[震威の結い手](#)』[ゾフィー・サバリッシュ](#)と契約している“[紅世の王](#)”。意思を表出させる[神器](#)はヴェールの額に刺繍された青い四芒星の“[ドンナー](#)”。
取り澄ました男の口調で、常に冷静。出陣に際しても、散歩に誘うような調子でしゃべる。

古来より何度も両界を行き来した歴戦の勇士で、太古の“[祭礼の蛇](#)”との戦いにも「[稲妻の剣士](#)」と呼ばれた当時の契約者と共に参加している。明哲な知恵者でもある。ゾフィーが何代目の契約者なのかは不明。

通称が和風なのは、以前に日本で契約した際のものをそのまま用いているためである。[カムシン](#)には「[紫電の軍師](#)」と呼ばれている。

【由来・元ネタ考察】

名前の元ネタは日本神話に登場する天神 [タケミカツチ](#)（[武甕槌命](#)・[武雷神](#)etc...）か。

「[私](#)」は討ち払う、払い除けるという意味であり、[真名](#)全体で考えて「[敵を討ち払う雷の剣](#)」という意味になる。契約者に炎ではなく雷という形で破壊の力を与えるという形で本質を表す真名である。

おそらく、過去に日本で契約もしくは[顕現](#)し、「[古事記](#)」での建御名方神（[タケミナカタノカミ](#)）に相当する“[徒](#)”を打倒したことから名付けられた通称と思われる。

【コメント】

出会った当初、女性としてあまりにも無防備だった[シャナ](#)をゾフィー同様気遣って、窘めもしない[アラストール](#)を叱り付けていた。

力のイメージが炎ではなく紫電という変り種。他にもオーロラや虹がいるが、こうしたもののイメージに近いものが“[紅世](#)”にもあるのだろうか。

[アニメ第3期](#)で登場した。